

| 事故 管理No. | 事故発生日 | 曜日 | 発生時間 | 事故区分 | 地区名 | 営業所名 | 氏 名 | 職種 | 年齢 | 勤続 | 損害程度(品目・負傷状況) (損害額) | 休業見込 (実休業) | 荷主・相手方 | | 事 故 内 容 |
|-------------|-------|----|------|------|-----|------|-----|----|----|----|------------------------|---------------|--------|---------|---------|
| | | | | | | | | | | | | | 名称 | 本・支店、工場 | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----------|------------|---|-------------|------|--|-----|-------|----|----|-------|-------------------------------|---|--|---|---|
| 1 | J8100357 | 2025/12/15 | 月 | 13:40 | 貨物 | 関東 | つくば | 自社作業員 | 作業 | 30 | 1年8ヶ月 | エリア空調機(室内外ユニット) 2,000,000円 | - | | - | エリア空調室内機を荷卸し作業にてパース上に3列で仮置きしていた。商品を格納しようとしてフォークリフトにて商品荷姿を確認せず(2列と思い込み)、地切したがパース側に置いていた商品(3列目・爪先側)への爪差し込みが甘くなりバランスを崩してパース下に落下、破損させてしまった。 |
| | 確認日 | 2025/1/8 | 木 | 確認者 (安全) | 発生要因 | ■ 初めて取り扱う商品であったにも関わらず作業手順書の周知ができておらず、また、管理者による指導もないまま一人作業を行い、ストレッチフィルムなどで商品を固縛することもなかったためリスク軽減ができなかった。 ■ 格納作業では商品を2列状態で取り扱うところ、荷卸しを3列で行ったまま2列に修正せず、格納作業者への伝達もなかった。 ■ 格納作業時、仮置き商品の状態(3列)確認をせず2列になっていると勘違いし爪先の出も確認せず作業を継続したため3列目に爪が入りきらなかった。 | | | | | | 再発防止対策 | ■ 新規商品取り扱いのための作業手順書とワンポイントレッスンの周知教育を行い、できていることを確認した(12/16、1/8)。 <ul style="list-style-type: none">商品荷扱い時は2列に並べ実施フォークリフト爪に差込位置をテープで表示ストレッチフィルムによる固縛を行い転倒防止 ■ 全作業者にフォークリフト基本操作を再教育し管理者は力量確認を行う(1/16迄)。 <ul style="list-style-type: none">荷扱い前に荷姿や固縛に問題ないか目視確認を行う爪先の出を降りて目視確認 ■ 朝礼時にKYを実施し作業時の注意点確認を継続中(12/16～)。 ■ 全作業者に作業指揮者講習を受講させる(2月で調整中)。 事故惹起者に外部機関で惹起者講習を受講させる(2/7)。 | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----------|------------|---|-------------|--------|--|----|---------|----|----|--------|------------------|--|--|---|--|
| 2 | J8100362 | 2025/12/18 | 木 | 10:30 | 交通(対物) | 中四国 | 広島 | 協力会社乗務員 | 輸送 | 43 | 20年7ヶ月 | 塩ビパイプ 40,270円 | - | | - | 協力会社乗務員が高速道の追い越し車線を走行中、緩やかな登坂車線前方を低速で進む車両を避けようと走行車線へ車線変更し再度加速したところ、加速力と登坂により車両が後傾したことで製品が後方へ滑り、その衝撃で飛び出し防止用ネット固定ゴムの1本が切れ、商品(塩ビパイプ)が荷台後方から道路上(走行車線左側)に落下した。 |
| | 確認日 | 2025/12/23 | 火 | 確認者 (安全) | 発生要因 | ■ 積込完了後に実施する保護ネット端部ロープの固定が不十分であった。 ■ 積込完了後、貨物の落下につながる固縛の緩みやネット保護の最終確認を行っていなかった。 ■ 固縛基準を認識していたにも関わらずロープ固定がしっかりできているか確認を行わなかった。 ■ 高速道路上で前方車両が不安全運転を行っていたため走行車線にて追い越しをかけた。 | | | | | | 再発防止対策 | 【応急処置】 ■ 積込み終了毎に作業者・乗務員の双方にてロープ固定強度を確認するとともに固定状況を写真撮影し記録に残すことを継続(対策期日:2025年12月19日より実施)。 ■ 積込み終了毎に作業者にて最終固縛状況を確認するとともに荷姿完了写真を撮影し記録に残すことを継続(対策期日:2025年12月19日より実施)。 ■ 事故事例の周知を行い、固縛方法の再教育を行い再発防止を図った(12月25日 臨時安全協議会を開催)。 ■ 運転方法に起因する事故であったかの検証(ドラレコ映像での真因追求)を行った(対策期日:2025年12月22日までに映像を入手し23日までに検証、対策立案)。 【恒久処置】 ■ 白山・京葉についても今回発生した落下事故の周知を行った(展開期日:2025年12月22日)。 また、社内水平展開のため、2026年1月16日に臨時社内安全会議を関係事業所を集めて開催予定。 ■ 効果的なロープ固定方法の検証を実施し、ロープ固定基準の制定と手順書への落とし込みを行う(対策期日:2026年1月末までに実施予定)。 ■ ロープ固定基準を制定後、手順に沿った固縛方法となっているかチェックリストを使用し確認し乗務員、積込作業者双方で記録に残す(対策期日:2026年1月末までに実施予定)。 | | | |